

[2] 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：5 題	解答数：30 問
問題の分量（対昨年比）	● 多い	○ ほぼ同じ ○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評</p> <p>全体的に大きな出題傾向の変化は無かったが、ページ数で2ページ、設問数で5問、マーク数で3つ増え、昨年度よりはペース配分を考慮しなければならなくなったと言える。</p> <p>各単元からまんべんなく出題されている。これについては毎年のことであるが、早期から対策をし、すべての単元の学習をもれなくする必要がある。</p> <p>昨年と比べ、実験の内容が図示され、それをもとに考察させる問題が2題から4題と倍増しているのは注目すべき点かも知れない。それぞれの実験に関しては、複雑なものではないが、受験生にとってあまりなじみがないものであった。これらの内容を時間内で把握し適切な選択肢を選ぶことができたかどうか得点率を左右したであろう。</p>		

[3] 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	A… 細胞の構造 B… 体細胞分裂とウニの発生	20 点	知識問題でやや細かいところを聞いている。設問 B は、多くの受験生が苦手とするグラフの問題であった。
第2問	A… 動物・植物の生殖、ウニ・カエルの発生 B… ウニの発生	19 点	生殖の細かい知識が聞かれていたが、設問数が少なかったため救われた受験生も多かったのではないかと。発生の実験に関しては、よく読んで考えなければならない問題であった。
第3問	A… 遺伝子の本体 B… 遺伝の法則、伴性遺伝 C… 連鎖と組換え	21 点	遺伝に関しては、いずれも平易な問題であったといえる。
第4問	A… ホルモンと自律神経 B… 筋肉	20 点	設問 B については、似たようなタイプの問題と混同してしまう受験生が多かったのではないだろうか。きちんと問題を読み、何を問われているのか確認して解く必要があっただろう。
第5問	A… 水の吸収と移動 B… 植物ホルモン	20 点	設問 B はグラフを読み取り、さらにそこから想像力を働かせる必要があった。それほど難しくは無いが、最後の設問ということもあり、時間が無くてあせってしまった受験生もいただろう。